



柿林妙

TOPIC
01

「粧」マユビ
心身の健康と元気を応援

2023年の海外研修では特に長寿の人々が多く住むブルゾンこのひとつイタリア・サルデーニャ島を訪れました。その学びから、2024年はYOSOOU「粧」をテーマに、佛子園とJOCAの職員3人が資生堂の化粧品「ピスト」資格を取得し、活動しています。



小西 香織 (Share金沢) 加治 あゆみ (星が岡牧場) 増田 春菜 (JOCA南部)

3人は普段は各自の拠点で活動していますが、ハロウィンやクリスマス等は合同でメイクコーナーを設け、子どもや利用者さんに「粧」楽しさを伝えています。能登半島地震後は被災地でも活動、発せざる雰囲気ではないと思いましたが、理事長の後押しもあり、化粧品を失った方々にスキンケアやメイクを行ったところ、とても喜ばれました。そこで8月からは輪島ブルーの高齢者デイサービスで講座を定期開催。皆さんの表情が明るく、気持ちも前向きになる様子を私たちも元気をもらっています。」(Share金沢 小西 香織)

11月には輪島の仮設住宅で開催された資生堂の美容教室に参加。そのご縁から、今春に奥能登で行われる教室でも連携することになりました。今後はセラピスト職員を増やし、活動を地域に広げていきたいと考えています。ぜひ皆さまも参加ください。

3人の対応力に感心しました。初対面の参加者と目線に合わせて、ご自身でできるように寄り添いサポートする姿勢は日頃の職場で培ったものと感じました。一緒に能登「化粧品」の魅力を届け、笑顔の花を咲かせる活動を楽しみにしています。



資生堂ジャパン株式会社 美容戦略部 社会活動企画推進グループ 中部エリアソーシャルエリアリーダー 伊藤 由美子さん

TOPIC
02

能登町白丸地区の
休耕地を活用した
さつまいもプロジェクト

能登町白丸地区では、少子高齢化や農業従事者の減少により、長年放置されていた畑がありました。昨年元旦に発生した能登半島地震は、住民や建物だけでなく、地域の主要産業である農業にも大きな被害をもたらしました。

これを打開するため、休耕地を利用したさつまいも栽培プロジェクトが始動。3年間で約3億円の収入を目標に、地域経済の活性化と農業の復興を目指して地元の高齢者、障がいのある方、引きこもりの方々が協力し合い、8ヘクタールの畑でさつまいもを育てています。

プロジェクトには、地元の能登高校や石川県立大学の学生も参加し、農作業を体験しながら農業の大切さや魅力を学んでいます。活動を通じて、将来地域の農業を担う若者が増えることを期待しています。また、地元企業と連携してお菓子や加工品を開発し、能登町の特産品として販売する取り組みも進行中です。

このプロジェクトは、地元の人々が収入を得るだけでなく、地域に貢献する場を広げています。震災で被害を受けた能登が活気を取り戻し、住民が再び笑顔で未来に向かって歩むことを願っています。

(日本倶楽部 部長 篠原 竹中 敬)



日本フィラソソロービー協会・休職資金等活用事業「農福連携による共生社会創造事業」

ありがとうございます



大友福祉振興財団の助成により、輪島KABULETのグループホームにAEDを設置しました(7つ)。



日本財団「能登半島豪雨に
関わる子どもの教育・福祉
関連環境整備」事業により、
親子の居場所を整備。



紫YOLO工房様より仮設住宅や町の見回りに、Honda CROSS CUB(クロスカブ)50を2台無償貸与。



衛アネビー様よりブランコ寄贈。

スペインの奇祭「ラ・トマティナ」。
主催者も参加者も地域住民も隔てなく
盛り上がる。
2024年度海外研修より

妙柿 83号
社会福祉法人 佛子園
石川県白山市北安田町58番地2
TEL 076-275-0616
MAIL headoffice@bussien.com
H P http://www.bussien.com
発行日 令和7年2月10日

ARIGATO,NOTO

能登は、ひとりじゃない

「ありがとう。」をひろげよう

災害に限らず大きな困難に直面したとき、人の心は3つのステップをたどります。最初は「否認」。「なぜこんなことになったのか」と現実を受け入れられない段階です。次は「自然災害だから仕方ない」と少しずつ受け止めが進む「受容」。そして3つ目が「感謝」です。困難な状況の中でも自分以外に心を向けるときに生まれます。

感謝にも3つのステップがあります。

- ①親切(支援)への感謝 …… 炊き出しや泥かきといった具体的な助けに「ありがとう」と感じる。
- ②日常への感謝 …… 水道や電気が使え、近所のお店が営業を再開するなど、当たり前と思っていた日常のありがたさに気づく。
- ③逆境への感謝 …… 厳しい状況を乗り越えた経験や学びに感謝する深いレベル。

私たちは災害という大きな困難を受け止め、「感謝」のステップへ進みます。2025年の佛子園のテーマは「ありがとう。」。皆さまとともに、「ありがとう。」をひろげ、創造的復興への道を拓いていきます。



感謝の3step ① 親切への感謝 ② 日常への感謝 ③ 逆境への感謝 感謝の心を未来へ

NOTO,NOT ALONE から ARIGATO,NOTO へ

「人的支援の継続とボランティア休暇」創設

苑長の車谷さんは、富山県知事、富山県福祉協会の会長としての人的支援を推進。災害直後には職員を業務として派遣しました。職員は毎日活動を報告し、終了後は1週間以内に報告会を実施。この一連のプロセスが被災地へ入る職員の心理的ハードルを下げ、参加者が増加し、人材育成にもつながっています。

9月の豪雨災害以降は、仮設住宅での見守り活動のために「ボランティア休暇」を新設されました。目的は「参加したい人が参加しやすいように、苑として支援を奨励している姿勢を示すこと。支援に限らず「過労」ではなく「長く続ける」という苑長の方針が浸透し、制度の利用者も少しずつ増えているそうです。

「能登は、ひとりじゃない」への共感と応援

10月のセーナー苑祭ではNOTO,NOT ALONE専用ブースを設置してPR。デザインがおしゃれ「ロゴが



右から 苑長 車谷市朗さん、地域総合支援部長 加藤晴子さん、こだまの丘支援員 村上竜馬さん、こだまの丘支援課長 石田憲一朗さん

人的支援を継続くださっている富山県の「社会福祉法人セーナー苑」さんにお話をうかがいました。

まずは身近な人に伝える

加藤さんのお母様は、「自分は被災地へは行けないが、できることで応援したい」とビールのラベルや蓋を活用してオリジナルグッズを手作り。加藤さんも自分ができるのは伝え続けること、一緒に応援の輪を広げています。



お母様の手作りグッズ。

支援を通じて生まれる感謝の連鎖

「人生で初めてボランティアに参加できた。ご縁」に感謝と語る村上さん。石田さんはボランティアに来ていた国際協力経験者と交流し考え方や世界観が広がった。学びに感謝、加藤さんは佛子園の施設を訪問し事業を知ることができた。出会いに感謝と話します。そして車谷苑長は「多くのスタッフが手を挙げてくれた。本当に嬉しい」と職員への感謝を伝えました。能登を通じて、「ありがとう。」が広がっています。



セーナー苑祭で。職員の方お手製のチラシで盛り上げてくれました。

好きとファンが増え、法人全体で内外へ発信してくださっています。

観天望気

忍者といえば、かつて情報を操る達人だった。自然と共に生き、敵の動きを察知し、影の中で行動する。その知恵や技は、己の経験と感覚に基づき、生き残るための地道な工夫と戦略が求められた▼令和の時代、膨大な情報が瞬時に飛び交う世界で、人々はスマートフォンやAIに頼り、情報取得のスピードを競い合う。この急速な変化の中で、私たちは情報に振り回されているのか。AIの分析結果に依存しすぎること、本来の思考力を失う危険性もある▼この日、伊賀市で行われた次世代リーダー育成研修では、街の各所に潜む忍者をわずかなヒントを頼りに情報を駆使して探し出すというフィールドワークが行われた。ヒントは少なく、街並みは広い。わずかな手がかりに目を凝らし、現場を歩く中で、自然と知恵が働く。身体を張って忍者に扮しているのは何を隠そう法人理事の皆さんであった▼AIと人間の共生とは何か。いにしえの忍者たちは、情報を得た後は周辺の様々な情勢を鑑み、自らの運命をかけて独自の判断を下していた。現代においても、最終的な判断は人間が責任をもつて行うべきものだ▼情報とは、ただ受け取るものではなく、使いこなす進化させるものだ。AIを道具として活かすためには、常に学び考える姿勢が必要だろう▼膨大な情報の渦中で、私たちは何を見つ、何を学ぶのか。次の時代を切り開くためには、忍びのように静かに我慢強い知恵が必要となる。当然、我慢強いという以上は、「今更AIはいよいよ」と好き嫌いというっている場合ではないということも敢えて付け加えておこう。

(良)

NOTO,NOT ALONE研究所

〒928-0001 石川県輪島市河井町武部208 輪島KABULET内
Tel:0768-23-4890 https://bussien.com/notonotalone/

オンラインショップはこちら
https://notonotalone.base.shop/



ごちゃまぜはフェーズフリー

フェーズフリー(Phase Free)とは、平常時と非常時のフェーズ(社会の状態)の境界をなくし、身のまわりのものやサービスを日常と非常時の両方で活用しようという考え方です。

今春、能登にオープンする「コミュニティセンター(コミセン)」は、「いつも」と「もしも」をフリーにして、ごちゃまぜで未来を築くための拠点です。

参考：(一社) フェーズフリー協会



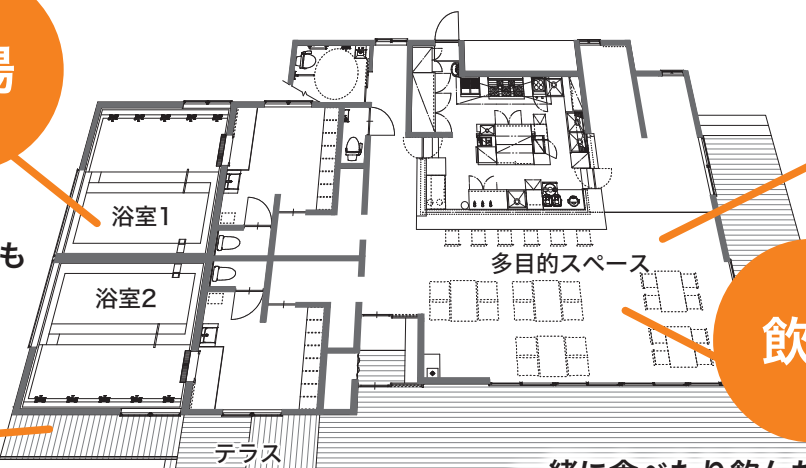
集会から食事、福祉サービスまで行う多目的空間(イメージ)。

銭湯

多世代交流の場。
高齢者の入浴支援も行います。

集会
機能

イベントやお祭りにも
利用できます。



福祉
機能

高齢者デイサービス、介護予防、
障害者就労支援など。

飲食

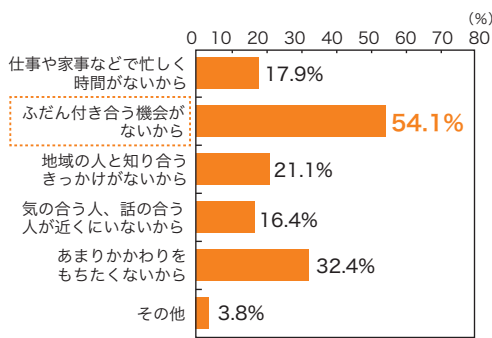
一緒に食べたり飲んだりして
日常的なつながりを育みます。



マリンタウンコミセン(イメージ)

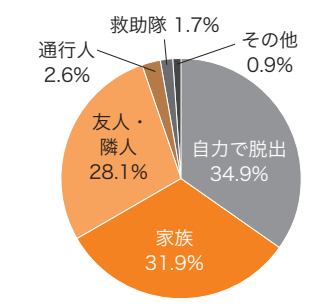
「コミセン」は、地域の皆さんが元気になり、明日の能登を創り上げるための要素が満載です。

図2「地域で困っている人をあまり助けようと思わない・助けようと思わない」理由



出典：平成28年版 厚生労働白書

図1 阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等



出典：平成30年版 防災白書

★地域のつながり

災害時に助けてくれるのは、家族の次に「友人・隣人」(図1)。一方、「地域で困っている人がいたら助けようと思いますか?」という質問では、「助けようと思わない(10.6%)」と答えた人の最多理由が「ふだん付き合う機会がないから」(図2)でした。つまりお祭りやイベントも含めた日ごろの関係性が非常時の支え合いにつながります。



2018年の開設以来、輪島カブーレは、世代や国籍を超えた「ごちゃまぜ」のコミュニティを育んできました。それは住民の主体的な関与を促し、「支援する側」と「支援される側」を超えた相互依存の新たなモデルを生み出しました。発災後、自らも被災しながら、カブーレの復旧に駆けつけた住民たち、その姿は「ごちゃまぜ」が育むコミュニティの可能性を示しています。



地域をつながりが力に
地震の前から、集まっていた
輪島KABULET®(カブーレ)は、能登半島地震の発災後13日、奥能登豪雨からは12日で温泉を再開。この迅速な復旧を支えたのは、日ごろから地域住民と築いてきた「支え合い」の関係でした。日常的なつながりが、災害時に地域全体の大きな力を引き出したのです。

部屋にこもってられない！
すごいマシンが
やってくる



GOTCHA!WELLNESS各店に導入決定！

2/27(木)白山店、小松店を皮切りに、駒ヶ根店、岩沼店に順次マシンが入ります。

町野と宇出津のコミセンにはウェルネス施設を併設し、健康維持と機能改善に定評のある「鍛錬」のマシンを導入します。年齢や怪我、病氣などで諦めていた方々の「また元気に体を動かせるようになりたい」という願いのために開発された画期的なマシン。腰痛・肩こり・膝痛・五十肩・ぎっくり腰・姿勢矯正など、老若男女問わず効果を発揮します。

実際に試したスタッフも、「腰痛が和らいだ」「肩が楽になった」と驚きの効果を体感。運動が苦手な方や高齢の方も楽に使え、使うたびに「歩きやすくなった」「体が軽くなった」と嬉しい変化があるから、気づけばマシン目当てに、外出が増えること間違いなしです！

輪島の伝統「振り売り」が
「フリウリ」となって
復活！



★災害関連死

避難生活の疲労やストレスで体調を崩して亡くなる「災害関連死」の概念は、1995年の阪神・淡路大震災を契機に生まれました。中越地震や熊本地震、能登半島地震では、建物倒壊などによる「直接死」を上回っています。

大震災の死者数

	直接死	災害関連死
中越地震(2004)	16人	52人
熊本地震(2016)	50人	218人
能登半島地震(2024)	228人	298人(2025.2.6)

「あとから来る者のために」
来る者のために
コミセンの設置には国との粘り強い交渉が求められ時間を要しました。ですが、私たちがいま取り組んでいることは、将来世代へとつながっていきます。

「あとから来る者のために」
あとから来る者のために
種を用意しておくのだ
山を川を海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞を我慢する
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから頼ってくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれが自分ができる
何かをしてゆくのだ
坂村 真民
1909.1.20006

熊本地震の災害関連死の主な原因(複数回答)

出典：内閣府 HP

原因	人数
地震のショック、余震への恐怖による肉体的・精神的負担	112
避難所生活などの肉体的・精神的負担	81
医療機関の機能停止などによる初期治療の遅れ(転院、既往症の悪化など)	46

5つのコミセンが
今春より順次
オープン



1 マリワカ



2 鳳至



3 門前



4 町野



5 宇出津

日本財団：令和6年能登半島地震に関わる「憩いの場」の新規開設と運営事業

座談会

明日の能登を
つくろう

輪島マリンタウン
仮設団地住民の皆さんとともに、
コミセンへの期待を語りました。



出席者：後列中より時計回り／橋爪和夫さん(自治会・会長)、寺田誠(輪島 KABULET 施設長)、福島裕見子さん(班長)、歌見信子さん(班長)、堀田直輝(JOCA 理事・災害支援担当)。座談会は1月9日に輪島カブーレで実施。

人と会わなくなるのが一番つらい

福島：最近仕事を始めたんですけど、それまではずっと家にいて辛かったです。炊き出しをもらいに行ったりもしましたが、家に缶詰状態でした。

橋爪：人と会わなくなるのが一番辛いですよ。福島：炊き出しは待ち時間があるので、顔は知っていても話したことがない人や、ぜんぜん知らない人と会話が始められることもありま

す。本当にさみしいときは炊き出しのおしやべりに救われていました。歌見：仮設は家が近いので、笑顔を交わすだけでも、気持ちがほっとします。

ふらりと行けば誰かと会える場所

堀田：鶴巣地区から入居された皆さんは、集会所で飲み会をされていたんですね。

歌見：年末には大宴会合い、新年早々に区長交代もあって。予約や弁当手配といった準備はありましたが、大人数だったので集会所が使えて助かりました。

福島：行事があるときだけでなく、いつでも触れ合える場所があるといいですね。炊き出しに行くと、ご無沙汰している人になつたり会えたりするのが嬉しい。コミセンも、そういう感じになれば。

※能登半島地震では従来のように抽選ではなく、地域ごとに回って仮設住宅へ入居したため、仮設団地内でも出身地域ごとに隣接して生活ができています。

コミュニティの可能性

歌見：鶴巣地区では、春祭りや秋祭り以外にも田起こしや草刈りなど、集まる機会が多かったです。会って、食べて、騒いで。

寺田：同じことを一緒にやることで共通言語が生まれますから、仮設の定期清掃もみんなで行くと良いですね。

歌見：いまは、知らない人同士でも「炊き出し」が共通の話題になっています。何時間くるよ、とか。

橋爪：私がいた朝市周辺はもともと集まる習慣があったし、ご近所づきあいには地域性があります。福島：仮設にきて初めて顔を合わせた人も多

みんなで見守り合う場所に

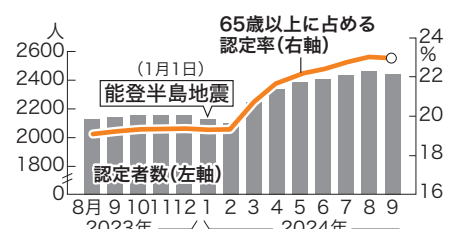
歌見：元氣だった90代のおばちゃんが運動不足で足が上がらなくなってしまつて。震災後は景色が変わつて道が分からなくなり、一人で外出できなくなつてしまつたそうです。

寺田：そういう方こそ、コミセンを使つてもらいたいんです。毎日お風呂に来るだけでもいいですよ。

堀田：仮設を巡回していると、お風呂は足腰の問題だけでなく、一人だと不安で使えないという声も聞きます。

橋爪：コミセンは安全確認の意味でも有難いですね。

輪島市の要介護・支援認定者数(各月末)



★要介護・要支援認定者の増加
能登半島地震の影響で、被災自治体では要介護・要支援認定者が急増しました。例えば輪島市では、2023年末の2,154人から2024年9月末には2,445人と13.5%増加。特に軽度の要介護認定(要介護1)が約4割増え、日本全体の増加率(1.7%)を大きく上回っています。

ミニ輪島KABULET®のような存在に

寺田：震災後、輪島カブーレで始めた一人用のお惣菜やお刺身販売が好評で、ジョーケースの前に自然と人が集まるようになりました。福島：干物を焼いてもらえるのも嬉しいですね。誰かと一緒に食べたいですね。

堀田：配食も、希望者には「コミセン」一緒に食べていただけるようにしたいと思っています。歌見：そういう仕組みがあると、自然に交流が広がります。

堀田：コミセンは広場に面してデッキがあり立ち寄りやすく、子どもの遊ぶ姿が見える設計になっているんですよ。

橋爪：子どもの笑い声に大人も元氣をもらえる。コミセンはみんなが「ごちゃまぜ」で過ごせる場所になりたいですね。

コミセンをみんなで創る
寺田：発災後、輪島カブーレに転職される方が多いんです。助けられるだけではなく、自分も助ける側に回りたい。コミセンも住民の方が「働いて、ことを通じて盛り上げていきたい」と思っています。

歌見：年齢制限はない？(笑)
寺田：ないです。時間も午前中だけとか自由です。

橋爪：人間は誰かの役に立つことが生きがいになり、喜びになるもの。

堀田：講座にも先生やスタッフ等、さまざまな形でかかわっていただきたいんです。

橋爪：知り合いが水引講座をしているけど、けっこう人が集まるらしいよ。

寺田：住民の皆さんが「このコミセンは自分たちで運営する」と考えれば、どんどん面白くなるでしょう。

(後) 終り